

下屋 浩一郎 部長

Shimoya Kouichirou

院長補佐、産婦人科 部長

■ 専門医

日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医

日本生殖医学会生殖医療専門医

「スタッフ全員で、ご本人ならびにご家族にとってよりよい答えが得られるよう、一緒に進んで行きたいと思っております。」

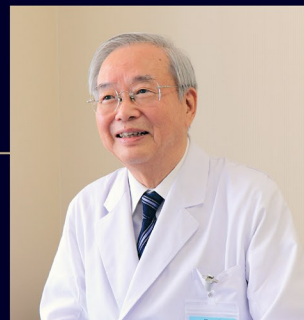


日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー®、各診療科の医師（小児科、産婦人科、乳腺外科など）、臨床心理士、看護師などさまざまな専門職とともに相談者の視点に立ったきめ細やかなチーム医療による遺伝医療を行っている。遺伝情報に基づいた薬や治療法の選択が始まっている。



当院の遺伝医療（DNAや染色体の遺伝情報に基づく医療）への取り組みは早い。2004年9月から始まった「遺伝外来」を起点に、2016年7月からは新設された「遺伝診療部」が中心となって現在、専門性の高い取り組みが行なわれている。

「遺伝性乳がん卵巣がん症候群
(Hereditary Breast and Ovarian Cancer: HBOC)」



園尾 博司 川崎医科大学附属病院 顧問

Sonoo Hiroshi

川崎医科大学附属病院 前病院長 (2013.4~2021.3)

日本乳癌学会名誉理事長・名誉会員

日本乳癌検診学会名誉会員

「県内に2つしかない遺伝性乳がん・卵巣がん診療の基幹病院として乳腺甲状腺外科や産婦人科と連携して診療を行なっています。」

Department of Medical Genetics

医療最前線

»» vol.75

川崎医科大学附属病院
遺伝診療部

Report!

「遺伝カウンセリング」による 遺伝性乳がん・卵巣がんへの支援

遺伝性疾患をチーム医療で
支える「遺伝診療部」の存在

一般的にはまだまだあまり知られていない「遺伝カウンセリング」。いわゆる遺伝性疾患（遺伝子や染色体が原因となっている）や先天異常を持つ本人や家族を、さまざまな面から支援することを目的として始まった。対象となるのは、「家族や親戚に同じ病気（がん）にかかった人がいる。自分にも発症するのでは」「自分や家族の病気が生まれてくる子どもに遺伝するかわかりたい」「遺伝性疾患と診断された。病気の詳細や遺伝学的検査について相談したい」などの問題に直面した人々だ。

「遺伝カウンセリング」の取り組みを「認定遺伝カウンセラー®」の山内泰子氏はこう説明する。「日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医®」と「認定遺伝カウンセラー®」が連携しながら、最新の情報を提供しつつ、本人・家族が納得できる治療方針が立てられるよう、本人の想いを尊重しながら意思決定できるように、心理社会的な支援をしています。」

遺伝情報による診断・治療・予防が行なわれるようになってきた。そのひとつに「遺伝性乳がん・卵巣がん（HBOC）症候群」がある。「遺伝診療部」の升野光雄 副部長は「HBOC」の詳細をこう説明する。「ほとんどのがんは遺伝しませんが、乳がんや卵巣がんの五〜10パーセントは、遺伝要因が影響しています。「HBOC」は、細胞のがん化を抑え

る働きをする『BRCA1・BRCA2』という遺伝子のいずれかに生まれつき変異があり、乳がんや卵巣がんを高いリスクで発症する遺伝性腫瘍のひとつです。この変異を持つ女性が生涯で乳がんになるリスクは、一般の女性の六〜十二倍とされ、卵巣がんの発症率も高まるといわれています。」

続けて遺伝性がんのリスクを山内氏はこう指摘する。「遺伝性のがんは本人だけの問題ではなく、遺伝情報を共有している血縁者に関わる必要があります。そうした場合、血縁者に伝えるべきか、伝えるならどう説明すべきか。検査の方法、乳房や卵巣の予防的な切除手術もあります。相談にいらつしゃった患者さんやご家族に応じて、科学的根拠に基づいた情報をわかりやすく伝えます。ご自身が納得できる選択ができるよう、それぞれの専門職が連携しながら細やかな支援を続けています。」

これからさらに高まると予想される「遺伝カウンセリング」のニーズ。川崎医療福祉大学大学院では二〇〇五年度から認定された遺伝カウンセラー養成課程があり、修了者が、現場で活躍している。本人、家族、そしてこれから生まれてくる子どもたち。すべての命を守るための新しい医療。これからも診療科、職種を超えたチーム医療で遺伝医療の可能性に挑む。

お問合せ

川崎医科大学附属病院

倉敷市松島577

☎0864621111

<https://kawasaki-m.ac.jp>

※写真は取材用に撮影したものです

■2021年8月25日号掲載

本文中の医学情報、写真は掲載当時のものです。

（※）—日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会の共同認定資格